

## 教科等研究会（中学校特別活動部会） 令和 2 年度 研究活動のまとめ

### 1 研究テーマ

互いのよさを出し合うことで、自主的・実践的に課題解決する特別活動  
～社会参画、人間関係形成、自己実現のねらいを明確にした集団活動の創造を通して～

### 2 研究経過

第 1 回			第 2 回			第 3 回		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
7 月 1 4 日	9 名	御船 中学校	1 1 月 5 日	御船 中学校	佐藤 貴文 教諭	1 1 月 2 6 日	広安西 小学校	須藤 昂 教諭

### 3 研究の概要

#### (1) 研究の内容

##### ① 主題設定の理由

これからの子どもたちには、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、豊かな感性を持って自分と周囲の人、各々の生き方を認め合いながら、よりよい社会、よりよい人生をどのように切り開いていくかを自ら考え、実践できる力を身に付けていくことが重要となる。

特別活動では、学級活動、児童会、生徒会活動、クラブ活動、学校行事等のよりよい集団活動を通して、学校生活を送る上での基盤となる力や社会で生きて働く力を育てていく。よりよい集団活動は、自分と異なる文化、習慣、生き方を認め合う土壌や協働性、集団への所属感、連帯感を育むことにつながる。それが学級文化、学校文化を醸成し、特色ある教育活動の展開を可能性へとつなげる。

特別活動の目標に掲げられている「互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」よりよい集団活動の創造過程は、特別活動で育成する重要な資質・能力である「社会参画力」、「人間関係形成力」、「自己実現力」を実践的に身に付けていくための重要な機会となる。

よりよい集団活動をめざして、話し合い活動で合意形成された目標や一人一人に役割分担のある協働活動は、互いのよさを集団の中で具体的に生かし、個性と集団を伸ばしていく集団活動に他ならない。よりよい集団活動を創造していく活動を通して、「社会参画力」、「人間関係形成力」、「自己実現力」が育成されているかという視点を明確にもって実践していくことが不可欠である。

##### ② サブテーマ

##### ア 人間関係形成

人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成していくために、よりよい集団活動の中で、個人と個人、あるいは個人と集団という関係性を築いていくことが必要である。年齢や性別といった属性考え方や関心、意見の違い等を理解した上で認め合い、互いのよさを生かすような関係をつくるのが大切である。

##### イ 社会参画

社会参画の意識は、よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決していくために、自発的、自治的な活動を行い、個人が集団へ関与する中で育まれる。学校は一つの小さな社会であると同時に、様々な集団から構成される。学校内の様々な集団における活動に関わることが、地域や社会に対する参画、持続可能な社会の担い手となっていくことにもつながっていく。

##### ウ 自己実現

現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする集団活動を通して、自己のよさや可能性を集団の中で生かし、試していくことで、自己理解が進み、自己のよさを生かす力、自己の在り方生き方を考え設計する力などが育まれる。

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 小学校高学年と中学校、それぞれの学級会の活動を参観できたことで、それぞれの実態をとらえるよい機会となった。
- 撮影した授業の視聴という形で研究会を実施したことで、事前の授業者から授業の内容について説明を行い、あらかじめ参観の視点を絞って授業を見ることができた。
- これまで3年間引き継いできた受験に向けての学級活動を、学級会の形で実践したことで、より生徒主体の活動となり、また、より具体的な課題解決案を考える取組となった。
- 学級会の授業を通して、合意形成の在り方について学び合うとともに、討議を通してよりよい実践方法へと深めることができた。
- 授業者が、学級活動の学習構想案を提案したことで、研究会の中で学習構想案について学び合うことができた。
- 生徒が、「互いのよさを出し合う」活動になるよう、「合意形成」の在り方についてより研究を深めていく必要がある。
- 生徒が主体的に活動できる学級会の取組について研究していくとともに、学級会の活動を普及させていく必要がある。
- 学習構想案の系統について、各教科とのつながりを研究していく必要がある。

4 実践事例

(1) 授業の概要

単元の目標	(1) 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付ける。 (2) 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができる。 (3) 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。
単元終了時の生徒の姿	自己の役割を意識し、学級会等の話し合いで合意形成したことをもとに、みんなで協力し、進んで活動に取り組むことができる生徒
単元を通じた学習課題	3年7組の学級生活をよりよくするため、学級目標に沿って工夫が見られる活動を計画し実行しよう。
働かせる見方・考え方	よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し、様々な問題を主体的に解決しようとする事。
生徒の実態	(資質・能力に関して) 学級をよりよくするために、話し合いを通して考えたいという思いや、学級会で決まったことにみんなで取り組みたいという思いを抱いている生徒が多い。一方で、なかなか学級会で意見を発表できなかったり、決まったことにも積極的に取り組めなかったりする生徒もいるので、日記や学級会の記録綴り等を活用し、学級のみんなの思いを拾い上げたり、少数意見の取り扱いに配慮したりしていく必要がある。 (学びに関して) 学級会が好きであり、みんなで話し合いをして意見がまとまっていくことに喜びを感じている生徒が多い。また、自分の意見を最後まで主張するわけではなく、友だちの意見を聞いてよりよい意見へと考えを変えることもでき、学級全体としての意見をまとめていくという意識も高い。そこで、折り合いをつける際の技能的な面や、少数意見だった意見の扱い方等を、計画委員会を中心にしながら丁寧に取扱わせていく必要がある。
指導上の留意点	○話し合う内容(学級や学校の諸問題)は生徒自身が見つけ、決定させる。 ○生徒に、話し合いの前に熟考させて、自分の意見をしっかりともち、話し合いの見通しを立てて参加させる。 ○意見が多くなりすぎないように、考える視点をもたせる。 ○話し合いにおける基本姿勢 ①発言を受け入れて(否定しないで)理解しよう。 ②簡潔にわかりやすく伝えよう。 ③全員が意見を出せるようにしよう。 ④共感や考えの変化を伝えあおう。 を理解させた上で、「熟慮」と「討議」を重ねながら課題解決を図らせる。 ○集団の考えの発展・統合、合意形成、納得を図らせる。 ○話し合いで決定した実践事項の反省・改善を行わせる。
授業者自評	・今回は合意形成に至るまでのステップで、出た意見に質問をしたり意見を言ったり、反対意見も含めて意見を出した後に最終的な合意形成を、と言う流れにしたが時間が足りなかった。 ・授業後の感想の中には、「提案された取組のルールを改めて話し合う必要がある。」というものや、発表が苦手な生徒が、進んでアイデアを出してくれた生徒への感謝が綴られているもの等があった。 ・テストがあったため、事前に熟議をする時間がほとんどなかったことが課題である。

	<p>帰りの会で議題を話し合うのだが、10分という時間の中で、何かを決めるというのが短期間では難しかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>提案理由は子ども達と考えてより深いものにすることができなかつたため、自分の方で提示した。</li> </ul>
協議より	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合い前のルール確認がよかった。個々で決めたことは絶対やる。「攻撃ではない」という言葉で安心して取り組めたと思う。</li> <li>熟考する時間が足りなかつたのが残念だった。個人の意見を別の時間に考えさせておくことや、話し合いの説明を短くするために、「合意形成」等、キーワード化して習慣化するとよいと思った。</li> <li>意見を発表できなかつた生徒の分を別の時間で紹介することで、その子達の考えもクラスに反映していけると思う。</li> <li>考えを1つにまとめるのではなく、それぞれの意見に対しての合意形成ができている話し合いだった。</li> <li>今回の司会、板書の姿が、小学校で指導していくうえでの手本となった。</li> <li>話し合いの中で、意見に対して先生が思わず「それいいね」と言っていた。子ども達に影響があると思うので、ぐっと我慢することが大切だと思った。</li> <li>合意形成する際に1つの拠り所となるのが学級目標や提案理由だと思う。</li> <li>方法についての意見が多く出ていたため、まずは約束を決めて、それに関して詳しく、という風にしていくと話し合いがぶれないと思う。</li> <li>話し合いのめあての中に、「クラスメイトの良いところを見つけよう」というものがあったが、振り返りに反映されていたのかという点が疑問に残った。</li> <li>今後の実践につなげていく、というところが今後の生活に生かされており、良いと思った。</li> <li>子ども達の建設的な意見がたくさんでていた。</li> <li>他教科との関連、カリキュラムマネジメントの視点も必要だと思った。</li> <li>適宜、班活動をいれて、班の意見として発表させる方法もあると思う。</li> </ul>
まとめ 蘇陽南小学校 永田裕通 校長先生	<p>中学校の授業も今まで見てきたが、ほとんどがグループ協議だった。また、「小学校で基盤ができていた」という佐藤先生の謙虚な姿勢がよかった。小中の先生がお互いに理解することのすばらしさが実感できた。小学校での積み重ねを中学校で伸ばすように取り組まれているからすごいと思った。中学校でもとにかく内容1を重視するようによく言われた。</p> <p>合意形成に関して。なぜ集団決定から合意形成に変わったのか。合意形成の過程に価値がある。今回の話し合いは手段であり目的。今、求めている姿である。今回、合意形成の力をつけていこうということを意識した意図的な発問がたくさんあった。今回のような反対意見を言ったからといって相手が嫌いなわけではない、といったような説明が大切だ。反対意見は大事である。ただ、どういうものを理解できていると、反対という言葉を使わずにいえる。「～さんの意見は良いと思います。でももっとこうすれば……」という風に、反対意見を提案する意見に変えていく。「こういう風にしたらどうでしょうか」と変えていくことがとても大事。</p> <p>提案理由は生徒に言わせてほしかった。自分達で話し合っただけ決めたものは質がちがう。合意形成とは理由をまとめていくことである。理由がもっと出ると良かった。</p> <p>学習構想案に書かれていた本時で働かせる見方考え方を、どのように書けばいいのか、あえてそこを考えることで授業実践を考えてほしい。書かれている内容が大きいと、意見がバラバラになりうまくまとまっていけない。考える視点を具体的に書くことよい。</p>
矢部中学校 富士川晶三 校長先生	<p>本日は映像で参観したので、実際に学級に行ってみたいと思った。</p> <p>まず、これまでの学習指導要領との違いについて述べる。</p> <p>これまでの特活の成果は、学級の基盤づくりと集団への所属感にあった。そして、これまでの課題の解決策が新学習指導要領には示されている。例えば、変化の激しい社会に伴うキャリア教育の充実等である。</p> <p>また、特活は、これまでは指導のプロセスが整理されないまま実践されていたが、今回整理され3つに分かれている。身に付ける資質能力が意識されないままに指導がなされていたが、今回はそれが明確に示された。佐藤先生の構想案の中にも、資質能力が明確に示されていた。また、単元のゴールが示されており、育みたい資質能力に合意形成の力が書かれている。授業視聴の視点で、佐藤先生は多数決に寄らない合意形成と言われていた。多数決の是非はよく議論になる。例えば、相対的な多数決は死票が多くなってしまうなど。</p> <p>話し合い活動の視点は大きく3つある。1つ目に時間。2つ目に計画。3つ目にパターン化である。まず、時間については、特活の授業は時間内に終わらず次の時間に続けるものが多いということ。また、本日の話し合いが盛り上がったのは、しっかりと計画が練られ、内容が魅力的だったからである。最後に、司会の生徒がとてもよかったのは、内容がパターン化されていたからである。</p> <p>本日の話し合いが、今後の実践に生かされて、さらにより学級活動となることを期待している。</p>

(2) 学習構想案

○本時の目標

受験（検）に向けて、自分たちの思いや課題を確認し、授業中における学習ルールを考える。

○本時の学習展開

議題	受験（検）に向けて、自分たちの思いや課題を確認し、授業中における学習ルールを考えよう。				
提案理由	共通テストが終わり、受験（検）に関する今までの取組を振り返り、これから先の学校生活でクラスの団結を深めるためには具体的な約束事を決め実践することが必要だと考えたから。				
話し合いのめあて	○意見を出し合うことで、クラスメイトのよいところを見つけよう。 ○話し合うことで、充実した学習環境を作るために努力をしようと思意欲をもてるようになるろう。				
過程	時間	学習活動	進め方	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
とらえる	5	○提案理由の確認 ○共通テストの振り返りをしよう。	・共通テストの振り返りを行い、実態をつかみましよう。	・クラスの実態について考えさせるとともに、これから授業を受けるうえで大切なことを考えさせる。	意見をもとめる話し合いの仕方などについて理解している。 【知識・理解】 クラスメイトの意見を聞き、相手の意見を尊重しながら約束事を考えている。 (学活ノート) 【思考・判断】
ひろげる・ふかめる	20	○「受験（検）を成功させるために、これからの授業をよりよくさせるためのクラスの約束事と、それを実行するための具体的な取組案」を確認し個人意見を発表する。 ○出された意見について、課題点や問題点を述べ意見交換を行う。	・これからの授業をより良いものにしていくために、クラスで約束事を考えたいと思います。  ・それぞれで考えたことを発表しよう。	・個人の意見がなかなか出ないときには班を作って班で話し合いをさせ、その後の発表は個人でさせるようにする。  【話し合いの視点】 ・全員が達成感を味わえるような取組になるか。 ・全員が取り組めるか。	
まとめる	20	○意見交換をもとに約束事と具体的な取組案を決める。 ○本時の話し合いで決まったことや今後の流れについて確認する。	・それぞれから出された意見に対し賛成意見や反対意見はないでしょうか。個人で話し合いましよう。 ・この時間に決めたことを確認します。 ・決まった目標を守るべくがんばっていきましょう。  【まとめ】 クラスで決めた具体的な約束事と取組 『 』	・ここで決まったことを必ず守っていくことを確認しておく。	
つなげる	5	○教師の話聞く。 ○振り返りを行う。	・悔いのない結果とならないようにがんばっていきましょう。		